

平成29年度 宮崎県立都城きりしま支援学校小林校学校関係者評価書

4段階評価

4 十分満足できる

3 ほぼ満足できる

2 やや物足りない

1 改善を要する

【総評】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画 2分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営 3生きる力を育ぐむための教材教具の開発や学習環境の整備 4集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成 5保護者への教育方針や教育活動の伝達 6好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導 7児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育 8児童生徒理解に立った指導	職員の自己評価の平均は2.9、保護者は3.5となった。項目2の「学部間等の連携・校務運営」に関しては、職員の自己評価は2.7、項目3の「教材教具の開発・学習環境の整備」に関しては、2.6という結果であった。児童生徒の実態が多様化し、実態に応じた指導・支援が今まで以上に必要となっているので、学部間で十分に連携を図りながら、生きる力を育むための教材教具の開発のための職員の専門性及び専門的指導力の向上に努めていきたい。	3	3	小学部、中学部及び高等部が離れた地域に所在するいう条件の中で、一貫して、課題研究やテレレ会等を活用する等、様々な創意工夫がなされている点は、高く評価できると思います。また、学校行事、地域行事等における新たな試み等、生徒の年齢や特性等に応じた段階的な取組みが行われている点もすばらしいと思いました。 引き続き、保護者との連携、学部間をはじめとする職員間の連携及び学習環境の整備等を進めて頂き、その成果と特徴を発信して頂きたいと思います。
連携・支援	9個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援 10学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡 11共生社会を目指した学校・地域づくりの推進 12障がいや個性に応じた進路・就業支援 13地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実	職員の自己評価の平均は2.8、保護者は3.5となった。項目11の「学校間交流及び居住地校交流を通して共生社会を目指した学校・地域づくり」に関しては、保護者の評価3.4であるのに対し、職員の自己評価が2.7になっている。本年度は、合同で行う行事と修学旅行が同じ時期に重なり児童生徒の負担も感じられたことやインフルエンザの感染を防ぐために交流を軽減した時期があったことによるものと考えられる。来年度は、交流の時期や活動内容を十分検討していきたい。	3	3	進路・就業支援指導において、関係機関との連携や進路先の開拓等を精力的に実行した結果、高等部7名が希望の進路先を決定することが出来た点はすばらしいと思いました。 今後も引き続き、共生社会を目指した学校・地域づくりの推進に向け、学校の特徴を最大限に生かしながら、例えば、本校と東方小・東方中及び小林高の生徒の障がいへの理解や共生社会の必要性等に係わる変化等について、データ化・分析してみることも有益なのではないかと思いました。
研修	14研究や研修を通じての専門的指導力の向上 15職員のニーズに応じた研修、教育間の相互支援	職員の自己評価は2.6となった。昨年度からの課題である。本年度は主幹教諭がキャリア教育の職員研修を実施したが、今後は、職員のニーズを十分把握し、研修の在り方を工夫したい。	2	3	先生方の希望や勤務実態、児童・保護者のニーズを的確に捉え、更に良質な研修等を実施して頂き、児童の年齢や個々の特性等に応じた教育に繋げて欲しいと思います。
	16児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立	職員の自己評価の平均は3.0となつた。中でも項目18の「安全面での準			特に、危機管理に対して、先生方の意識の高まり、課題解決に向けた取組み及び

生活・安全	17 交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底	備・対応」は3.1であるが、項目19の「緊急時対策の整備と対応の充実」は2.9となった。本年度、災害時の児童生徒保護者引き渡し訓練等実施したが、各学部で施設整備を点検し、不十分な箇所の改善を図っていきたい。	3	3	次年度に向けた課題が明確になっており、着実な対応を行っていることが窺えました。本項目に係わる事項は、児童の生命やこれからの暮らしに直結する重要なものであるため、引き続き粘り強い支援をお願いします。
	18 安全面に留意した準備や対応				
	19 緊急時対策の整備と対応の充実				
その他	20 諸会議、校内研修、課題研の効果的実施	職員の自己評価の平均は2.7となった。特に項目22の「会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減」に関しては、2.5となり、項目25の「施設整備等安全な教育環境」に関しては、2.1となった。項目22に関しては来年度に向けての会議の精選の検討を行った。また、TV会議等を積極的に活用し、会議のための職員の移動に関する時間削減につなげたい。項目25に関しては、学校整備委員会等でも検討を繰り返してきたが、学校内だけでなく県とも協議し改善を図りたい。	3	3	会議、研修会等の効果的実施等、いくつかの課題が散見されているようですが、学部間及び職員間等で更に情報共有・共通理解を図って頂けたらと思います。全体的には、保護者アンケート結果に比べて職員のそれが低いという結果でしたが、私たちは逆に、先生方お一人おひとりが真摯に諸課題に向き合っているとの表れではないか、と感じました。これからも、生徒がわくわくした気持ちで「学校に行きたい」と思える学校作りに努めて頂きたいと思います。
	21 児童生徒や職員の人権保護				
	22 会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化				
	23 児童生徒は登校を楽しみにしているか				
	24 P T A活動の活性化、保護者の積極的参加				
	25 施設・設備等、快適で安全な教育環境				
	26 個人情報の管理、必要な情報の提供				

1 本年度の取組について…「コスモススピリッツ」に関する事項

<自立>「自立に向け主体的に生きる力の育成」

- ・本年度は「日常生活の指導」について課題研究を進めてきた。各学部の授業公開やその後の職員間での意見交換をTV会議を活用することで学部間の連携を図り、小・中・高の一貫した指導支援体制に努めた。
- ・キャリア教育の視点から、全学部での定期的な清掃週間の実施、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、児童生徒、保護者対象の就労に向けた進路学習会、福祉サービス事業所説明会を実施し、進路選択や決定につなげた。
- ・教育支援部とキャリア支援部が連携して、教育相談及び進路相談等を実施することができた。

<協力>「互いに助け合う豊かな心の育成」

- ・防災メールを活用して、災害時の保護者引き渡し訓練や医療的ケア対象児童生徒の緊急時訓練を実施し、危機管理体制の強化を図った。
- ・東方小学校、中学校、小林高等学校との日常的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。
- ・コンプライアンス研修や「ワン・アクション運動」(学校全体が取り組む)「ワン・トライ運動」(職員1人1人が取り組む)に積極的に取り組み、服務規律の遵守と危機管理体制の充実を図った。

<挑戦>「家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」

- ・心のバリアフリー推進事業でのボッチャの体験学習や障害者スポーツ大会を通じて、児童生徒の目標達成につなげることができた。
- ・西諸地域の小・中学校及び高等学校等の要請相談等に対応し、地域のセンター的機能の充実を図った。

2 次年度へ向けて

- 本年度に継続して「日常生活の指導」を重点を置いた課題研究に取組、授業公開やニーズに応じた専門研修を取り入れてOJTを推進し、障がいの特性に応じた専門性及び専門的指導力の向上を図る。
- 学部間及び、保護者や関係機関とのネットワークを構築し、将来を見据えた小・中・高一貫したキャリア教育の推進を図る。
- 東方小・中学校、小林高等学校との交流、及び居住地校交流の活動内容を見直し、よりよい交流及び共同学習の充実を図る。
- 災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練をより計画的に実施することにより、危機管理体制の強化を図る。